

株主のみなさまへ

第147期 第2四半期連結累計期間
株主通信

平成24年4月1日～平成24年9月30日



マツダ株式会社

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。
ここに、マツダグループの第147期 第2四半期連結累計期間（2012年4月1日から2012年9月30日まで）の業績ならびに通期業績見通しについてご報告申し上げます。

平成24年11月

代表取締役会長
社長兼CEO（最高経営責任者）

山内 孝



業績の概要：すべての利益レベルで黒字を達成

当第2四半期連結累計期間の自動車市場は、日本での補助金効果、米国の堅調な需要回復はあるものの、引き続いての欧州の低迷、中国など新興国の減速など、下振れが懸念される状況が続きました。

このような状況の中、当期間の当社のグローバル販売台数は、新型「マツダ CX-5」が販売を牽引し、前年同期比1.4%増の61万3千台となりました。連結売上高は、台数・構成の改善などにより1兆235億円（前年同期比6.7%増）となりました。利益面では、営業損益は、為替の円高影響はありましたが、新型「CX-5」による台数・構成の改善やコスト改善等により、115億円の利益（前年同期比331億円増）となりました。経常利益4億円（前年同期比311億円増）、当期純利益57億円（前年同期比456億円増）と、期初見通しを上回り、すべての利益レベルで黒字を達成しました。

新型「CX-5」販売好調

商品面では、本年2月よりグローバルで販売開始したフルSKYACTIV技術搭載の新型「CX-5」が高い評価をいただいています。当初のグローバル販売見込み16万台を大きく上回る受注を獲得しました。この予想を上回る受注に対して、2012年8月に16万台から20万台に生産能力を増強し、さらに2013年3月から宇品第1工場（広島市南区）でも生

産を行い、年間生産能力を20万台から24万台に増強することを決定しました。

構造改革プランは順調に進展

また、今年2月に公表しました構造改革プランの実行も順調に進んでいます。特に、新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築では、大きな前進がありました。ロシアでは、ソラース社との生産合弁会社において、新型「CX-5」の生産を10月より開始しました。ASEAN地域では、AATのピックアップトラックの生産能力拡大を実施し、さらに、マレーシアでは、ベルマツ社と合弁会社を設立し、新型「CX-5」の生産を2013年春より開始する予定です。

通期見通し達成に向けて

当下半期の市場環境は、新興国市場の減速など、引き続き厳しい環境が続くと予想されます。当社では、フルSKYACTIV技術搭載車両の第2弾、新型「マツダ アテンザ（海外名：Mazda6）」をグローバルに導入し、販売台数の底上げを図る一方、コスト改善にも一層注力し、今期見通しの達成に向けて、全力で取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS 1 新型「マツダ CX-5」、グローバルでの販売好調を受け、年間生産能力を増強

マツダは「SKYACTIV技術」を初めて全面的に採用した新型クロスオーバー SUV「マツダ CX-5」のグローバルでの需要拡大を受け、年間生産能力を、2012年8月に16万台から20万台に増強し、さらに2013年3月から24万台に増強します。また、今後見込まれる「SKYACTIV技術」搭載車の生産増に対応し、ガソリンエンジン「SKYACTIV-G」とディーゼルエンジン「SKYACTIV-D」の年間生産能力を40万基から80万基に増強しました。マツダは、2016年3月期のグローバルでの販売台数を170万台、うち「SKYACTIV技術」の搭載車比率を80%とする計画です。



新型「マツダ CX-5」

TOPICS 2 海外生産体制の強化

■ ロシアで新型「マツダ CX-5」の生産を開始

2012年10月、マツダはロシアにおけるOJSC ソラーズ (Sollers) との生産合弁会社であるMAZDA SOLLERS Manufacturing Rusの工場において、新型「マツダ CX-5」の生産を開始しました。同工場では、新型「Mazda6 (日本名: マツダ アテンザ)」の生産も計画しており、立ち上がり時の年間生産能力は5万台となります。将来的には10万台規模の生産能力を目指します。2012年9月に行われた設立記念式典には、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領ら要人を来賓として迎え、両社の関係者らも含めた約200名が列席して行われました。



設立記念式典の様子

■ マレーシアでベルマツ社との合弁会社「マツダ・マレーシア」を設立

2012年9月、マツダはベルマツモーター社と合弁会社マツダ・マレーシア Sdn. Bhd. を設立しました。新型「マツダ CX-5」の現地組立を、2013年春より開始することを決定しており、同国における組立は、2011年1月から行っている「Mazda3 (日本名: マツダ アクセラ)」に次いで2車種目となります。ベルマツとの強力なパートナーシップのもと、マレーシアにおけるビジネスおよびブランドを強化していきます。

■ メキシコ新工場建設、計画通りに進展

マツダと住友商事株式会社のメキシコでの生産事業合弁会社Mazda Motor Manufacturing de Mexico S.A. de C.V.の新工場の工場建屋は、2012年度中には完成する予定です。2014年3月期中の操業開始に向けて、準備は計画通りに進んでいます。

TOPICS 3 電気自動車「デミオEV」のリース販売を開始

2012年10月より、「マツダ デミオ」をベースに、走行中にCO₂などの排出ガスを出さないゼロエミッション車として自社開発した電気自動車「デミオEV」のリース販売を国内で開始しました。「デミオEV」は、高効率なリチウムイオンバッテリーや独自のモーターを搭載することで、気持ちの良い走りや200kmの航続距離 (JC08モード/社内測定値) を両立します。マツダは、今後も、お客様の利便性や電気駆動技術などに対する知見をさらに深めていきます。



電気自動車「デミオEV」

CLOSEUP

クローズアップ



新次元の「走る喜び」を創出する
世界基準の新世代フラッグシップモデル

Mazda
アテンザ

新型「マツダ アテンザ (海外名: Mazda6)」を発売

マツダは、新型「マツダ アテンザ (海外名: Mazda6)」を日本で発売、海外にも導入します。新型「アテンザ」は、グローバルで高い評価を得ている新型「マツダ CX-5」に続き、SKYACTIV技術とデザインテーマ「魂動 (こどう)」を採用したマツダの新世代商品の第2弾です。マツダ独自のアイドリングストップシステム「i-stop」と減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」の採用により、燃費性能を大幅に向上するとともに、先進安全技術「i-ACTIVSENSE (アイ アクティブセンス)」を採用。すべての領域において技術とこだわりを尽くしたマツダを代表する商品です。

スタイル	4ドアセダン/ステーションワゴン
エンジン	ガソリン: 2.0L/2.5L、ディーゼル: 2.2L
燃費 (JC08モード)*2	ガソリン: 15.6 ~ 17.4、ディーゼル: 20.0 ~ 22.4 (km/L)
価格帯*3	250 ~ 340 (万円)

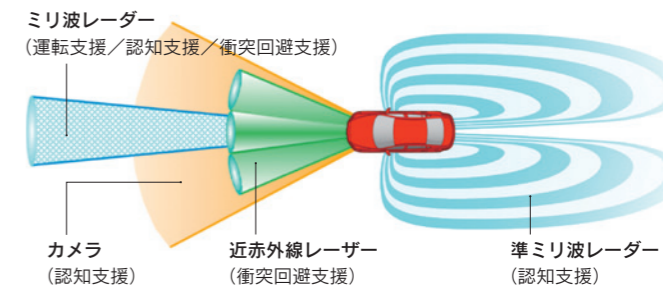
*1 減税額および対象グレードについては販売店にお問い合わせください。

*2 燃費消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境 (気象、渋滞等) や運転方法 (急発進、エアコン使用時等) に応じて燃料消費率は異なります。なお、JC08モード走行は10・15モード走行に比べ、より実際の走行に近くなるように新たに設けられた試験方法で、一般的に燃料消費率はやや低い値になります。

*3 価格は消費税込。別途リサイクル料金が掛かります。

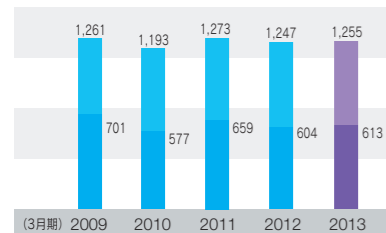
先進安全技術「i-ACTIVSENSE」

「i-ACTIVSENSE」は、ミリ波レーダーやカメラなどの検知デバイスを用いたマツダの先進安全技術の総称です。事故が避けづらい状態での「衝突回避」や「被害軽減」を図るプリクラッシュセーフティ技術や、「認知支援」で安全運転をサポートするアクティブセーフティ技術で構成されています。



グローバル販売台数

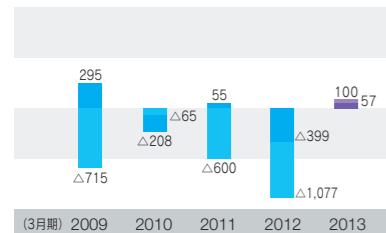
(千台) ■ 通期 ■ 第2四半期累計 ■ 通期見通し



グローバル販売台数は新型「マツダCX-5」が販売を牽引し、前年同期比1.4%増の61万3千台となりました。通期では、前年比1%増の125万5千台となる見通しです。

当期純利益(△損失)

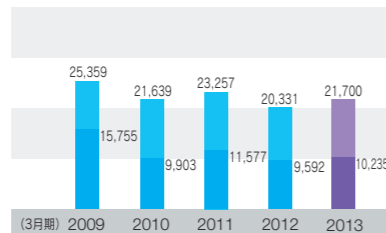
(億円) ■ 通期 ■ 第2四半期累計 ■ 通期見通し



純損益は、前年同期比456億円増の57億円となりました。通期では、100億円となる見通しです。

売上高

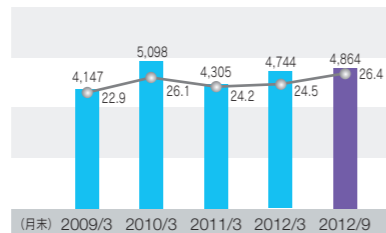
(億円) ■ 通期 ■ 第2四半期累計 ■ 通期見通し



売上高は台数・構成の改善などにより、前年同期比643億円(6.7%)増の1兆235億円となりました。通期では、前年比6.7%増の2兆1,700億円となる見通しです。

純資産/自己資本比率

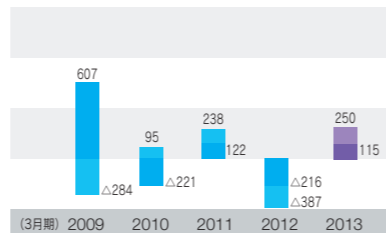
(億円/%) ■ 純資産 ● 自己資本比率



純資産は、前期末比119億円増の4,864億円となりました。なお、自己資本比率は前期末比1.9ポイント増の26.4%(劣後特約付ローンの資本性を考慮した場合:28.3%)となりました。

営業利益(△損失)

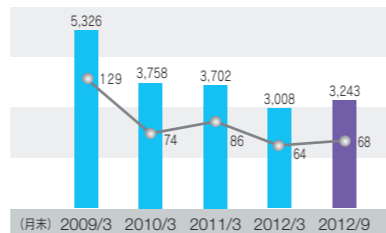
(億円) ■ 通期 ■ 第2四半期累計 ■ 通期見通し



営業利益は、前年同期比331億円増の115億円となりました。為替の円高影響があったものの、台数・構成の改善やコスト改善などが寄与しました。通期では、250億円となる見通しです。

純有利子負債/純有利子負債自己資本比率

(億円/%) ■ 純有利子負債 ● 純有利子負債自己資本比率



有利子負債から現金及び現金同等物の四半期末残高を除いた純有利子負債は3,243億円となり、純有利子負債自己資本比率は68%(劣後特約付ローンの資本性を考慮した場合:56%)となりました。

* 2013年3月期通期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

	販売台数(千台)	通期	第2四半期累計	通期見通し	概要		
日本市場	219, 221, 206, 206, 214	219	221	206	206	214	<ul style="list-style-type: none"> 販売台数は、販売好調な新型「マツダCX-5」が牽引し、前年同期比16%増の11万台 新型「CX-5」は、販売開始から6カ月連続でセグメントトップの販売台数を達成 ディーゼルエンジン搭載車は引き続き高い評価を獲得 通期では、新型「マツダアテンザ(海外名:Mazda6)」の導入による販売増加を図るとともに、新型「CX-5」の好調な販売モメンタムを維持し、21万4千台となる見通し
北米市場	347, 307, 342, 372, 383	347	307	342	372	383	<ul style="list-style-type: none"> 販売台数は、前年同期並みを維持し、18万2千台 米国の販売台数は、前年同期比1%増の12万7千台。新型「CX-5」および「Mazda3(日本名:マツダ アクセラ)」などSKYACTIV搭載モデルが販売増に貢献 カナダでは、前年同期比4%増の4万2千台を達成 下期には、新型「CX-5」の2.5Lモデルを追加するとともに、新型「Mazda6(日本名:マツダアテンザ)」および新型「CX-9」を導入。通期では、これら車種の導入により販売増加を図ることで、38万3千台となる見通し ブランド価値の強化に向けた施策も継続
欧州市場	322, 239, 212, 183, 182	322	239	212	183	182	<ul style="list-style-type: none"> 販売台数は、前年同期比6%減の8万5千台 新型「CX-5」は引き続き、好調な販売 ロシアでは、販売台数は前年同期比20%増の2万3千台、シェアは0.1ポイント上昇の1.5%を獲得 通期では、ロシアでの販売をさらに強化。また、販売好調な新型「CX-5」および新型「Mazda6」の新規導入による販売増加を図ることで、18万2千台となる見通し
中国市場	135, 196, 236, 223, 170	135	196	236	223	170	<ul style="list-style-type: none"> 販売台数は、景気拡大テンポの鈍化や競争激化などの影響により、前年同期比15%減の9万台 第2四半期より、中国市場では初となるSKYACTIV搭載車、新型「CX-5」を導入 「Mazda3」は、2011年に導入した新型「Mazda3」効果により前年並みの販売 通期では、新型「CX-9」の新規導入による販売増加を図るとともに、「Mazda3」や「Mazda6」を中心とした販促活動を強化することで、17万台となる見通し
その他市場	238, 230, 277, 263, 306	238	230	277	263	306	<ul style="list-style-type: none"> 販売台数は、その他市場全体で前年同期比12%増の14万6千台 オーストラリアでは過去最高の販売台数およびシェアを獲得 タイ、インドネシア、マレーシアでも過去最高の販売台数およびシェアを獲得し、ASEANでは前年同期比54%増の4万9千台の販売を達成 通期では、オーストラリアで、販売好調な「Mazda3」に加え、新型「CX-9」、新型「Mazda6」の導入による販売拡大を図るとともに、ASEANで、「Mazda2(日本名:マツダ デミオ)」や新型「BT-50」などの販売強化策を実施することで、その他市場全体で30万6千台となる見通し

第2四半期累計実績および通期業績見通し

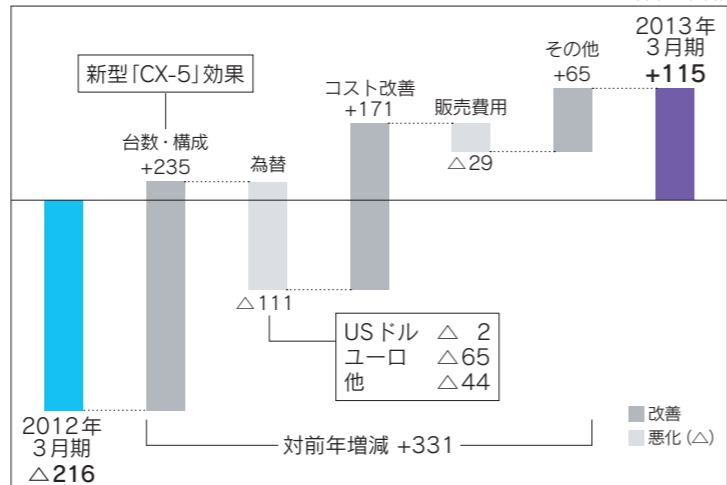
(単位：億円)

	第2四半期累計実績		通期業績見通し	
	対前年同期増減		対前年同期増減	
売上高	10,235	643	21,700	1,369
営業利益	115	331	250	637
経常利益	4	311	150	518
当期純利益	57	456	100	1,177

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

第2四半期累計 営業利益変動

(単位：億円)



* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

	'12/9末	'12/3末		'12/9末	'12/3末
資産の部			負債の部		
流動資産	9,015	9,897	流動負債	5,513	6,228
固定資産	9,131	9,262	固定負債	7,770	8,187
有形固定資産	7,657	7,842	負債合計	13,283	14,415
無形固定資産	198	207	純資産の部		
投資その他の資産	1,276	1,213	株主資本	4,244	4,107
資産合計	18,146	19,159	その他の包括利益累計額	542	582
			新株予約権	0	3
			少数株主持分	78	53
			純資産合計	4,864	4,744
			負債純資産合計	18,146	19,159

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

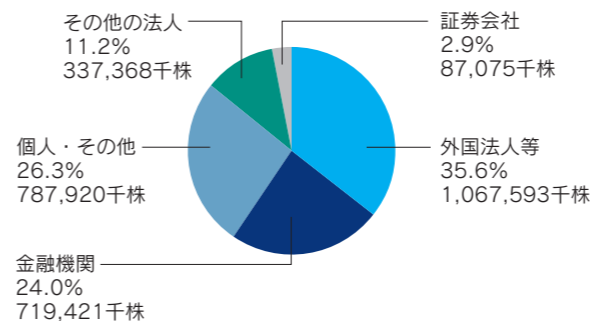
	'12/4 - '12/9	'11/4 - '11/9
営業活動によるキャッシュ・フロー	△117	△210
投資活動によるキャッシュ・フロー	△79	△304
財務活動によるキャッシュ・フロー	△299	902
現金及び現金同等物に係る換算差額	△84	△122
現金及び現金同等物の増減額(△減少額)	△579	266
現金及び現金同等物の期首残高	4,773	3,228
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,204	3,494

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	2,999,377,399株
株主数	125,491名 (前期末比9,016名増加)

所有者別状況



会社概要 (平成24年9月30日現在)

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	20,952名
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082)282-1111
ホームページURL	http://www.mazda.co.jp/

取締役および監査役 (平成24年9月30日現在)

代表取締役会長	山内 孝	取締役	坂井 一郎
代表取締役	尾崎 清	取締役	牟田 泰三
代表取締役	金井 誠太	監査役(常勤)	山本 順一
取締役	原田 裕司	監査役(常勤)	見立 和幸
取締役	丸本 明	監査役	赤岡 功
取締役	小飼 雅道	監査役	平澤 正英
取締役	金澤 啓隆	監査役	堀田 隆夫
取締役	中峯 勇二		

IRサイト「株主・投資家情報」 をご活用ください。

社長メッセージや決算情報、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	110,231	3.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	108,093	3.6
株式会社三井住友銀行	64,287	2.2
FORD MOTOR COMPANY ACCOUNT FOR MAZDA SECURITIES	62,313	2.1
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	59,991	2.0
伊藤忠商事株式会社	53,411	1.8
住友商事株式会社	53,409	1.8
三井住友海上火災保険株式会社	40,683	1.4
JP MORGAN CHASE BANK 385167	37,616	1.3
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	35,296	1.2

(注) 持株比率は、自己株式10,171,783株を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 (定時株主総会において権利を行使すべき株主の確定日) そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告します。
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/
株主名簿管理人 同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
・郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
・電話お問合せ先	☎ 0120-176-417
単元株式数	1,000株
証券コード	7261



本誌は植物油インキを使用しています。